▼司祭叙階式
2月12日（日）
▼選任式
2月10日（金）
会場　浦上司教座聖堂

発行所　カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人　中田輝次
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL095(843)3869
FAX095(843)3417
郵便振替番号01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp

よきおとずれ
CATHOLIC NAGASAKI MONTHLY
カトリック長崎大司教区報

1月・教皇さまの意向のために祈りましょう

①一般の意向：キリスト者の交わり
②宣教の意向：移動・移住者
③日本教会の意向：キリスト者の一致をめざして

《2006年　年頭教書》宣教年間「2006・ザビエル年」

大司教　ヨセフ　髙見三明

新年明けましておめでとうございます。旧年中のご厚情に心より感謝申し上げますとともに本年も何卒よろしくお願い申し上げます。この1年を通して皆さま方お一人おひとりが主キリストの祝福で満たされますようお祈り致します。

さて、今年4月7日は、聖フランシスコ・ザビエルの500回目の誕生日に当たります。またこの2月で、故ヨハネ・パウロ2世教皇さまが長崎に来られて25年になります。先祖が7代待ち続けていたパーパ（教皇）は巡礼者として来られ、信仰と平和のメッセージを残されました。この節目を契機に、ザビエルから始まった日本とくに長崎の教会の歴史を振り返り、教区の現況をふまえて、これからの宣教のあり方を考えてみたいと思います。そのため、昨年12月3日より今年の12月3日までを「2006・ザビエル年」と称し、宣教年間としたいと思います。ヨハネ・パウロ2世教皇さまのメッセージとその熱意に応えるためにも、参加し交わることを常に視野にいれながら、家庭、小教区、地区、教区、あるいは団体それぞれの場で「宣教」について考え、実践して行きたいと思います。

1．宣教と殉教の歴史に学ぶ

まず、ザビエルが3度訪れたという平戸で、ザビエルの宣教精神に倣うことを主眼としたいくつかの行事が予定されています。長崎では、「長崎さるく博」（長崎市主催、4月～10月）の中の「学さるく」の一環として、毎月第3土曜日の夜、7回にわたって、大浦天主堂でキリシタン史についての話しとミニ・コンサートが企画されています。いずれも、だれかれを問わず、できるだけ多くの人たちが誘い合って参加して欲しいと思います。

現在日本の188殉教者の列福式に向けて準備が進められています。本教区関係は有馬、雲仙、生月、西坂で殉教した44人です。神への愛と隣人愛を自分のいのちに替えてあかしした彼らに倣うため、教区殉教者列福推進委員会がまとめた小冊子『わたしは模範を示した』を読み、彼らの列福のために祈りましょう。この列福推進と連動して、原城跡や横瀬浦に小さな巡礼聖堂のようなものを作りたいと考えています。

また「信徒発見」の年に奥浦で生を受け教区司祭となった中村長八神父さまは、奄美大島で25年間司牧した後、58歳でブラジルに渡り、17年にわたって宣教と司牧に献身しました。ブラジルでは神父さまの列福運動が行われています。神への愛と隣人愛にあふれた神父さまの生き方にも注目し、その列福運動に参加したいと思います。

2．教区の現況と向き合う

本教区の信者数は少子高齢化などのため、また主日ミサの参加者はさまざまな理由で、いずれも減少傾向にあります。成人洗礼は極めて少数です。このような現実と向き合い、皆で真剣に取り組む必要があります。組織見直しはその一つです。昨年4月に小教区評議会が発足し、今年4月から地区評議会と教区評議会が動き出します。しかし組織は、皆が互いにキリストの愛を生きようとしないなら、死にます。また「自分の信仰を守り子孫に伝える」だけではなく、「福音の教えと生き方を信者でない人々と積極的に分かち合う」という発想に徐々に転換しなければなりません。教会が〝観光客〟を迎えるに当たっては、さまざまな問題があるとしても、宣教の好機として生かす努力をしたいものです。

3．宣教への今後の取り組み

教会の外に向かって宣教するためには、まず自分自身が福音の教えに通じキリストのように生きる、つまり「福音化される」必要があります。キリストのように生きることは「信仰を広めるための第一のそして最高の義務」なのです（『教会の宣教活動に関する教令』36番参照）。「キリストのように生きる」とは、「すべてに越えて神を愛し、隣人を神のために愛する」ということです。つまり「神と隣人に対する愛こそ、キリストの真のしるし」なのです。この愛がよい種として魂の中に育ち実を結ぶためには、神のことばを喜んで聞いて実行し、とくに聖体祭儀にしばしばあずかって、祈りと自己放棄、兄弟への具体的な奉仕と種々の徳の実践に絶えず励む必要があります（『教会憲章』42番参照）。

神のことばを聴く方法は、ミサ中の聖書朗読や聖書百週間などさまざまありますが、「小共同体」の中で行われる分かち合いはその有効な一つです。復活して生きておられるキリストを囲んで神のことばを読み、聴き、それを自分の生活と結びつけ、そのことを分かち合うことによって、魂がキリストに似たものに変えられ、宣教精神も生まれるのです。小共同体づくりを試みてはどうでしょうか。

昨年10月までの1年間「聖体の年」を過ごしました。ところで、聖体は宣教の源泉であり頂点です。聖体は「すべての人のために」〝裂かれたパン〟ですから、それによって養われるわたしたちも隣人に自分を与えて彼らとキリストの愛を分かち合うべきです。実に聖体は、わたしたちを、より正しく兄弟愛に満ちた世界を建設するために積極的に献身する寛大な宣教者となるよう導くのです（ヨハネ・パウロ2世『2005年世界宣教の日のためのメッセージ』）。こうして「聖体によって、全使徒職の魂とも言うべき愛が授けられ養われ」ます（『信徒使徒職に関する教令』3番）。ミサにあずかることが自分自身の福音化とほかの人の福音化につながるよう、聖霊の導きを祈りつつ、努力しましょう。

2015年は「信徒発見」150年目になります。これから10年間、いわば「新たな信徒発見」すなわち、福音にもとづく信仰に確信と誇りを持ち、もっと自由にもっと勇気を持ってほかの人とそれを分かち合う信者に生まれ変わることを目指して行きましょう。

第11回日韓司教交流会

第11回日韓司教交流会が、昨年11月15～17日、那覇で行われた。歴史認識に関して両国司教が互いに理解を深めようと始められたもので、会場を日韓持ち回りで毎年行われている。最近は司牧や宣教の問題についても意見交換をするようになった。今年は、韓国から金枢機卿他16人の大司教・司教、日本から12人の大司教・司教、それに両司教協議会スタッフや通訳を合わせて40人ほどが参加した。

初日は沖縄の歴史や文化についてのゆたかはじめ氏の講演を聞き、2日目は高里鈴代氏の「沖縄戦と基地問題」に熱心に耳を傾け、質疑応答をした。午後は平和祈念公園を訪れ、韓国戦死者の記念碑の前で祈り、平和資料館や平和の礎（いしじ）を見学した。夜6時に安里（あさと）教会において金枢機卿主司式で教会いっぱいの信者たちと一緒にミサをささげ、ミサ後、信徒会館で沖縄料理の夕食をいただいた。最終日は谷大二司教（さいたま教区）が靖国神社と関連した政教分離の問題について、また春川教区の張益（チャン・イク）司教が「韓半島の平和についての展望」について話した。沖縄と韓国の状況が多くの点で似ていることに気づかされ、日本が今後取るべき姿勢についてあらためて考えさせられた交流会であった。

新鹿児島教区長に郡山神父　新仙台教区長に平賀神父

教皇ベネディクト16世は、鹿児島教区のパウロ郡山健次郎神父（こおりやま　けんじろう）現鹿児島志布志教会主任）、仙台教区のマルチノ平賀徹夫神父（ひらが　てつお）現教区管理者）を昨年12月3日、同10日付けで、鹿児島教区、仙台教区の司教に任命すると発表した。郡山新司教の叙階式は1月29日14時、鹿児島カテドラル記念聖堂。平賀新司教は3月4日13時、仙台白百合学園。新司教の略歴は次の通り。

パウロ郡山健次郎
被選司教

郡山被選司教（鹿児島）
奄美大島出身、63歳。司祭叙階後33年間、8教会司牧。クリスチャン　ライフ　コミュニティー、書記長。マリッジ・エンカウンター担当。

平賀被選司教（仙台）
岩手出身、60歳。司教館、宮城県南地区共同司牧・兼事務局長、カトリック新聞社編集長、司教総代理。同教区は前溝部司教の高松教区長転任で司教座は空位だった。

マルチノ平賀徹夫
被選司教

フランシスコ・ザビエル　尾上金助神父帰天

教区司祭のフランシスコ・ザビエル尾上金助神父が昨年11月26日午後3時32分、五島市聖マリア病院にて転移性肝がんのため帰天した。75歳。

尾上神父は1929年12月21日新上五島町青砂ケ浦生まれ。56年3月21日、青砂ケ浦教会にて司祭叙階。同年9月、飽の浦教会助任。60年9月、浜脇教会主任。61年4月、神崎教会助任。63年3月浅子教会主任。66年9月、高島教会主任。74年3月、水主町教会主任。88年4月、上神崎教会主任。95年3月、水の浦教会主任。2001年4月、丸尾教会主任。2005年3月からは聖マリア病院で引退療養中だった。

葬儀は同28日、午後2時から浦上教会で髙見大司教司式で執り行われた。

ほしかげ

司祭は正月三が日をどう過ごすかで苦労する。正月によく見られる風景から少々距離があるからだ。せいぜい年賀状をめくりながら遅い年賀状を書くか、箱根駅伝を観戦して過ごすか、そういったところか▼たまに心ある方が訪ねてくる。料理を抱えてきたり、正月に里帰りした家族を紹介に来たりで心が和む。ところが訪ねてくる人の中には一杯引っ掛けてくる人もいる。そんなある人の話。その方はすでに目が据わっていて、見るからに絡みにきたという雰囲気だった。缶ビールを自分にも差し出して飲めと命令し、次のように挑みかかってきた▼「教会はどうして自分から動こうとしない？　世の中にはなぁ、キリストの教えを知らずに道を誤っていく人が五万といるんだよ。なぜ教会は道を説かない？」それに対して問い返した。「道を誤る人がいるのはわかります。でもどうやって、あの人が道を誤っている、この人はよい道を歩んでいると知ることができるのですか？」▼ここでいちばん言いたい言葉が出た。「出て行くんだよ。一軒一軒家を訪ねて探すんだよ」。道理はわかるが、納得も出来ない。「お父さんがそういう事情の方を連れてきてくれませんか」。するとその人は「主任司祭はお前だろ。おれはここまで教えに来たよ。お前が行けよ」そう言って、リーダーシップの発揮を要望して司祭館を去って行った。

秋の司祭研修会
「リーダーシップについて」

司祭を対象にした半日研修会が、昨年11月24日に大司教館会議室で行われた。講師は福岡教区手取教会（熊本）の三上晋（すすむ）氏で、テーマは「リーダーシップについて」。小教区の主任司祭として、本来あるべきリーダーシップを発揮しているか、各自問いかけながら、1時間半に及ぶ講演を熱心に聞いた。

三上氏は、もともと企業の社員研修に出かけてリーダーシップの講義を務めていた経歴があり、今回の講演はその経験を買われてのもの。すでに福岡のサン・スルピス大神学院で助祭が受講する養成コースで教会におけるリーダーシップの講義を担当してはいたものの、限られた時間の中でエッセンスだけを話していただいた。大勢の司祭を前にしての講義は相当な重圧だったに違いない。

講義の中で「教会こそ、リーダーシップが発揮しやすい環境であり、司祭こそ、リーダーシップが期待される職務です」と力説し、奉仕者でありながら牧者として信徒を導く司祭の力量は、信徒が司祭の指揮に喜んで従うようにいかに信徒を向けていくかで試されることも強調した。何より品性を大事にして欲しい、また現代の教会では主任司祭が「位階的司祭職」を口に出すのを遠慮している、もっと司祭の置かれている身分を自ら理解し、はっきり打ち出して欲しいとも。

まだ受洗前の中学生時代に3年間毎日修道院のミサで侍者を務め、司祭への尊敬の念は誰にも負けない。だからこそ、司祭がリーダーシップを発揮して「機能する小教区」へと導いて欲しいという願いがにじみ出た講演だった。

アキレ・ランザロ神父
郷里のイタリアで帰天

人事の交流でかつて高松教区から長崎教区に派遣されていたアキレ・ランザロ神父が昨年11月12日、イタリア・ナポリの病院で肝臓病のため帰天した。45歳。

アキレ神父は長崎教区で1998年7月から5年間、真手ノ浦教会助任、浦上助任、香焼助任などを歴任。温かい人柄がその大きな体格からもうかがえた。2年前から病気療養のためイタリア・ナポリに帰国していた。

ボリビア便り
現地でシスター活躍

「よきおとずれ」の愛読者というシスターから、ボリビアの地で宣教活動のひとコマが届けられた。ここでその手紙を紹介する。

ボリビア日系人　サンファンコロニア入植50周年の感謝と慰霊ミサ。

昨年7月31日（日曜日）午前10時よりサンタクルースの補佐司教エスタニスラオ師を迎え、サンファンの教会で荘厳なミサをささげることができました。

サンファンコロニアは今年入植50周年を記念して、いろいろな記念行事を企画しております。大きな記念祭典（式典）は8月20日と21日の運動会や盆踊りなどです。20日の記念式典の折には時間の都合で、ミサをささげることができませんでしたが慰霊祭の形で主任司祭の追悼の祈りだけになっています。入植者の半数以上はカトリック信者ですので前もってミサをささげたい、と思っておりました。

折りよくおいでになったエスタニスラオ補佐司教さまは、元コンベンツアルのフランシスコ会員で、コルベ神父さまの縁の日系人ということもあり、喜んでミサをささげてくださいました。そして昼食会にも参加してくださり、子供の日本舞踊も観賞されて、喜ばれ、和やかなひとときを過ごされました。

サンファン移住地は幸い50年の歴史が教会とともに始まっています。それは長崎県出身の信者さんたちがいたために、当初の開拓時代イエズス会の神父さまがたより、よく司牧されてきました。イエズス会よりサレジオ会が引き継がれ現在に至っております。シスター方も当初はメルセス会、礼拝会、現在はサレジアンシスターズの担当になっております。

主任司祭ニグリス師は、多くの司牧担当をもっておりますので、サンカルロス司牧センターより、土曜日の夜のミサ、日曜日の9時のミサ、火曜日の夜のミサに来るだけです。いつもは教会に留守番役がいます。私は、サンファンコロニアの教会の留守居をあずかって、病人見舞い、地区のロザリオ会、お通夜や葬儀ミサの準備や連絡、日系人の学校での宗教の授業など担当しております。

サンファンコロニアは、日本国政府の援助と日系人の努力によって、素晴らしい移住地、ボリビアにとって貴重な農業モデル地区を作っています。

当日のミサで奉納した、米、果物、卵、などは、まさに彼らの汗の実りであり、神さまの祝福のしるしです。50年の感謝と慰霊のミサを日系人だけでなく、地元のボリビア人とともにささげ、昼食会も司教さまを囲んで、和やかな雰囲気で、ひとときを過ごせたのは、素晴らしいことでした。Dios Gracias（神に感謝）

一昨年私が日本に一時帰国した折、日本の多くの友人、知人、教会の信者さんたちに励まされ、献金とお祈りを頂きました。とくにサンファンの50周年のためにお祈りくださった方々に、この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

皆さまのお祈りで、立派な感謝と慰霊のミサができました。今後とも宜しくお願いいたします。彼らも、今度は100周年を目指してさらに一歩前進することと思います。皆さんの上に主の恵みが豊かでありますように。

サレジアンシスターズ　Sor Maria　小浜静子

物資援助のお礼
長崎カトリック神学院

11月27日、今年も平戸・北松地区の信徒ご一同さまから新米100俵、野菜、日用品、現金などたくさんの差し入れをいただきました。景気のあまりよくない時勢にもかかわらず、信徒の皆さまの多大なるご厚志に、神学院一同心より感謝申し上げます。

積み上げられた新米。小神学院生の力の源になる。

ふどう

▼太田尾教会新FAX番号
0959（34）2391

▼イエズス会立山修道院お知らせ　●日帰り黙想
①1月16日(月)　②1月26日(月)　③2月9日(木)　10時～15時半　**●1泊2日黙想**　①1月14日(土)～15日(日)　②1月28日(土)～29日(日)　③2月4日(土)～5日(日)　初日17時～翌日15時半
TEL095(821)4577

▼教区結婚講座　2月3日～28日・全8回　毎週火・金曜日の19時～21時15分　カトリックセンター2階講堂　申込先・家庭委員会
TEL095(842)4450

▼平和の元后マリアの共同体ミサ　2月4日(土)13時～14時半　浦上教会被爆マリア小聖堂　問合先・崎谷正子
TEL095(846)8296

▼26聖人殉教記念ミサ　2月5日(日)14時　西坂公園　雨天＝中町教会

カフェ サントス通りオープン！

2006年1月15日から「カフェサントス通り」がカトリックセンター1階にオープンします。
どうぞお気軽にご利用ください。
営業時間：11時～16時
（ランチタイム　11時～14時）
定休日：毎週月曜日　電話：095(846)4246

寄付

長崎コレジオ
●匿名様
長崎カトリック神学院
●匿名様
●平戸・北松地区信徒使徒職評議会様

右の方々からご寄付を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

香典返しお礼とご報告

長崎大司教区
●森山　浩様（中町）
故アガタ森山カヲル様
長崎カトリック神学院
●片岡サモ様（浦上）
故ペトロ片岡政春様
●髙見千恵様（三ツ山）
故ミカエル髙見和行様
●宮原正博様（浦上）
故ミカエル宮原牧男様

右の方々から神学生養成などのために、香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げますとともに故人のごめい福を心からお祈り申し上げます。

謹賀新年
2006年1月1日

（）内は叙階年数

大司教　髙見　三明(33)

長崎大司教区
中島　万利(70)　センター
山田　勇(66)　大司教館
西田　忠(62)　サンタ・マリア修道院
村岡　正晴(57)　大司教館
原塚　正人(55)　諫早市
深堀　政美(54)　大司教館
竹谷　音吉(53)　聖マリアの園
道向　栄(53)　五島市
中田武次郎(51)　聖マルコ園
岩永　薫(50)　大司教館
佐藤　哲夫(49)　熊本・帯山
川添　猛(45)　諫早
下川　英利(45)　平戸市
山内　豊(45)　神ノ島
川原　義和(44)　お告げ本部
山内　清海(44)　長崎市
下村　徹(43)　三浦町
村中　司(43)　黒崎
三村　徳美(43)　相浦
峰　誠一(42)　西木場
川上　忠秋(38)　中町
片岡　武信(38)　浦上
川口　靖彦(37)　大曽
浜崎　久司(38)　紐差
長谷　功清(37)　浦
橋本　勲(36)　三ツ山
山川　忠秋(38)　曽根
下口　勲(33)　深堀
大山　繁(32)　倭町
松下　光男(30)　青砂ケ浦
小瀬良　明(30)　滑石
浜口　末雄(30)　飽の浦
中島　健二(30)　長崎
前田　万葉(30)　高松司教館
村川　昌彦(29)　長崎コレジオ
山内　実(28)　平戸ザビエル記念教会
諸岡　清美(28)　大山
岩村　知彦(24)　センター
山脇　邦夫(24)　香焼
橋口　朝光(23)　鯛ノ浦
古巣　馨(24)　田平
烏山　聡(22)　島原
山田　満(21)　真手ノ浦
中村　守(23)　大神学院
浅子　センター
宮川　俊行(42)　幼きイエズス修道会司祭館
堤　好治(42)　福江・浜脇
野下　千年(42)　長与
平野　勇(42)　
岩崎　康彦(21)　大水の浦
川内　和則(20)　中央協議会
久志利津男(20)　
高野　治(20)　仲知
下山　盛朗(19)　鹿子前
鳥瀬　文武(19)　出津
牧山　強美(17)　大神学院
中村　倫明(17)　大神学院鉢木
福島　光明(16)　浦木
真浦　健吾(16)　宝亀頭
中浜　敬司(16)　
紙崎　新一(15)　大
平本　義和(15)　植松野
白浜　満(15)　大神学院
葛嶋　秀信(15)　大司教館
中浜　繁喜(15)　大神学院
鍋内　正志(14)　八幡町
山村　憲一(14)　時津
岩崎　晋吾(13)　水主町
下窄　英知(13)　中央協議会
中田　輝次(13)　馬込
湯浅　俊治(11)　大神学院
浅田　照明(11)　桐
大水　文隆(11)　大司教館
辻原　達也(10)　山田
川原　拓也(10)　
松田　聡史(9)　三井楽・貝津
山本　一郎(8)　浦上
嘉松　宏樹(8)　神学院
中島　誠志(8)　奈留
山田　良秋(7)　神学院
川口　昭人(7)　裾崎
一ノ瀬　秋美(7)　上神崎
岡　輝幸(7)　浜串
熊川　幸徳(6)　イタリア
大瀬良　直人(6)　丸尾
松永　正勝(6)　土井ノ浦
竹内　英次(5)　熊本・玉名
岩本　繁幸(4)　稲佐
尾高　修一(4)　長崎コレジオ
川原　昭如(4)　神学院
葛島　輝義(3)　井持浦
工藤　秀晃(3)　天神
前田　達也(2)　太田尾
竹谷　誠(2)　黒島
鶴崎　伸也(3)　
本田　靖彦(2)　青方
岩下　和樹(新)　滑石
鶴巻　健二(新)　浦上
山口　竜太郎(新)　浦
ジョン・クラークスン(51)　26聖人修道院
結城　了悟(51)　〃
ディアス・マヌエル(45)　立山修道院
J・アギラール(46)　永井学生センター

●コンベンツアル聖フランシスコ会
末吉　矢作(51)　聖母の騎士修道院
江口　美好(58)　〃
赤尾　満治(12)　〃
榊　修(4)　〃
濱田　盛雄(46)　東
山下　公輝(27)　長崎
萩原栄三郎(41)　湯
初田　徳一(50)　小
坂谷　豊光(41)　長
中島　優(50)　井
A・ドゥーゴシュ(23)　江
崎浜　宏美(38)　聖母の騎士学園

●聖アウグスチノ会
竹内　昭彦(18)　コルベ志願院
M・ヒルデン(32)　城
遠山　満(8)　山
山野　聖嗣(新)　〃

●レデンプトール会
ハンス・ハヌス(50)　愛宕
盛　克志(14)　〃
ヴィデンマン・マインラド(48)　〃

●フランシスコ会
谷津　良勝(38)　本原
冷水　義美(53)　長崎修道院
片岡　仁志(43)　〃

●神言会
川上　進(35)　西町
フィリップ・マッテュ(9)　〃
ビジュ・キシャケール(3)　〃
ピーター・ジェママット(1)　〃
永山　誠(26)　南山学園
大川　好洋(15)　〃
松本　勝男(14)　〃
マリアヌス・パレ・ヘラルド(1)　ビコ神学院

●マリア会
山崎　善彦(36)　海星学園
平手　勝博(34)　〃
末吉　克久(23)　〃
池田　紀行(35)　小ケ倉
松本　幸徳(18)　〃

●サレジオ会
古木眞理一(18)　愛野
本田善一郎(51)　牧野修道院

●オプス・デイ
小寺佐千夫(9)　長崎
中島　貴幸(6)　〃
木村　昌平(2)　〃

修道会など
●イエズス会
デ・ルカ・レンゾ(9)　26聖人記念館
スアレス・ミゲル(40)　26聖人修道院

原爆秘話

爆風に耐えた修道院のマリア像

―長崎市辻町

浦上の丘・辻町の修道院の建物内に据えられていたマリア像、原爆の一閃で庭に吹き飛ばされたが不思議にも「健在」だった。被爆60年後の今、こんな秘話――、がもれてくる。

原爆中心地から約1.6キロ離れた、当時の十字会修道院（現、長崎市辻町お告げのマリア修道会十字修道院）のマリア像（高さ約1メートル）は、聖堂に隣接した建物内に置かれていた。そのマリア像は、悪夢の原爆投下の194

5年8月9日、爆風にさらされたものの建物から約5メートル離れた所の中庭に〝立っていて〟、不思議なことに助かっている。

この話題に、阪神大震災で焼け残ったたかとり教会（兵庫県）の「キリスト像」を見に行ったある信徒は、「事情は別として爆風、炎から逃れた

ご像に、神のご加護みたいな何か共通したものを感じます」と話していた。

爆風で建物の下敷きとなった3人の修道女・岩崎シズカ、松岡ハツ子修道女は自力で抜け出し、副院長の山田サノ修道女を救出している。副院長は助け出されるやいなや体の痛みも忘れ、被爆マリア像とご聖体の入った聖櫃（ひつ）を抱き、裏の竹山に運んで延焼する修道院の炎から難を逃れている。

被爆マリア像は手首が折れてかすり傷があり、色もはがれていたが後年完全に修復された。ご像は、胎内にイエスさまを宿した美しい姿のまま、現在も修道院聖堂で、平和を祈り続ける修道女たちを温かく見守っている。

同修道院は、畑作業などしていた15人が、原爆後遺症などで次々と息を引きとり、報国隊員として工場で働いていた会員を合わせると、22人の犠牲者を出した。

祝 ダイヤモンド叙階70周年　中島万利神父

叙階70周年を昨年12月21日に迎える。現在、「カトリックセンター」で生活しており、昨年センター職員から「叙階70周年、おめでとうございます」と花束（写真）が贈られた。話す言葉は理路整然とし、訪問者は97歳と聞いてみな驚く。読書、祈りの毎日という。

1908年3月、旧西彼杵郡伊王島村大明寺郷に生まれる。7人兄弟姉妹の長男。ローマに留学、1935年現地で司祭叙階。浦上教会助任を振り出しに長崎公教神学校教諭、各地の教会を回り、1991年4月引退する。

原爆落下中心地に建つ旧浦上天主堂の遺壁、分譲問題で長崎市の幹部と激論、結果的には了解したと言い、中島神父にまつわる話題は尽きない。

教区の司教総代理など要職を務めた。現役時代の酒豪（ごう）は信徒の間でももっぱらの評判だった。適度の飲み方は「最高の健康法」と説く。

故ヨハネ・パウロ2世写真展

1月24日～2月26日
「ナガサキピースミュージアム」

故ヨハネ・パウロ2世が「平和の巡礼者」として歴史上初めて日本の地を訪れて今年は25年目となる。

「戦争は人間の仕業です」という名文句で始まる広島「平和アピール」は今も新鮮味を失ってはいない。そして2月26日の猛吹雪の中での「殉教ミサ」の印象も強烈だ。

このほど長崎市松ケ枝にある「ナガサキピースミュージアム」からぜひこの節目のときに写真展をとの申し出があり、長崎教区と広島教区が全面的に協力することで実現することとなった。

期間は1月24日（火）から2月26日（日）まで1カ月間である。

長崎地区 信徒の集い

作年11月13日、長崎地区信徒使徒職評議会主催の「信徒の集い」は大司教館体育館に信徒450人が参集して開催された。

中島清光会長のあいさつに続いて、この日のコンサート出演者を紹介してもらった高見和行さんの訃報に、祈りをささげた後、第1部のブルーグラス・コンサートに入った。はじめは硬い表情で聞いていた信徒も、だんだんとメロディーに乗り、体を揺らして手拍子をたたくなど、楽しいコンサートとなった。

第2部は高松教区の溝部脩司教の講演（写真）「日本教会の現状、課題、展望」と題して、私たち信徒に長崎の殉教者、キリスト教の歴史的観点から見た考察、最後に長崎教区の果たす役割についても分かりやすく話し、信徒の自覚を促す講演だった。

上五島地区「聖書講座」

上五島地区の「聖書講座」は昨年11月20日、午後1時から青方・上五島地区センターで開かれ、男女信徒約80人が参加した。

「聖書講座」は、長崎カトリック神学院の川原昭

如神父（写真）を講師に招き、テーマ「パウロの宣教旅行」と題して講義を受けたが、みな熱心に

900万神学院へ援助

教区連合婦人会

昨年11月27日、教区連合婦人会役員9人は指導司祭山内実師とともに大司教館を訪れ、森田真知子会長から髙見大司教へ神学生の援助金900万円が手渡された（写真）。寄付金を集めるのが難しい近年、多くの協力に対し大司教は感謝の言葉を託した。

クリスマス 愛の募金

昨年12月1日から教区福祉委員会・信徒使徒職評議会共催で実施されている。今回は昨年10月発生のパキスタン大地震と他の災害被災地への救援をはかり協力を呼び掛けている。1月15日まで。

長崎地区経済問題評議会連合会研修

作年11月19日、カトリックセンターで秋期研修会（永山力会長）を開いた。

指導司祭山内実師の経済問題評議会の現状と今後の課題について講話があった。会議では、長崎地区の地区割りに対する連合会の今後の方針について、各小教区間の意見交換があった。

人

20余年間、島の町政をあずかった前町長さん、平成17年1月の長崎市への編入合併を機に、これまで培ってきた離島観光を活かすため、同年4月、長崎市内の企業の経営者でNPO法人「ヴィアン長崎・伊王島活性化を目指す会」を立ち上げ初代理事長に就任する。

伊王島活性化めざす

NPO理事長　池下　守さん

ヴィアンとは、エスペラント語で「あなたの～を」という意味があるという。

町長時代からの口ぐせ、「意識改革」「町を変える」「やさしさ」「親切」と、いった言葉がインタビュー中、何回も飛び出し、観光客誘致にかける意気込みが伝わってくる。平成16年、人口900余人の島に23万人を超える観光客が訪れている。

これまでに子供・大人向け自転車教室、歩こう会などのイベントを主催。九州では珍しい「ベロ」タクシーを導入し、現在、3台が稼動している。

『『ベロ』タクシーとは、ラテン語で自転車を意味し、環境保護の先進国ドイツから導入しています。島の自然を楽しみながら走れる伊王島では快適な乗り物で観光客に受けています。将来、ガソリンの臭いのしない『島』としても売り出したい」と理事長は話す。

炭鉱閉山の町から離島観光を謳（うた）う島、「長崎―伊王島」行きの船から降りると桟橋に、「ようこそ伊王島へ」、乗船のときは「またのお越しを待っています」と、島の人情が透けて見える、掲示板が目に入った。

「島に誕生したヴィアン、この1年間は準備期間、2年目からは行動の年です。走って、走って、走り続けます」と、理事長の力強い改革宣言。

昨年11月、地方自治の功労で県民表彰を受けた。68歳。馬込教会所属。

市民クリスマス（大村）

昨年12月4日（日）4時半、第5回「市民クリスマス」が大村市のさくらホールで開催された。この集いは、大村にある6つのキリスト教会（カトリック2、プロテスタント4）で近年から行われている大村市民のためのクリスマスのイベントである。今年は約400人が参加。植松、水主町

説教は西町教会助任司祭ビジュ師。故郷インドの歌を交えながら、子供たちに親しみやすく語りかけた。

第2部は、水主町教会を皮切りに13の教会が聖歌を発表。ハンドベルやフルートなどを用いた伴奏や手話を取り入れるなど、さまざまな工夫も見られた。日ごろから教会の中で奉仕している子供たちの声は、聖堂に染みわたる深い響きとなり、集まった人々の心を温かな気持ちに包んだ。

特別賞に輝いたのは、水主町、浦上、時津、滑石の各教会。

子供聖歌の集い（長崎）

昨年12月4日、第14回「子ども聖歌の集い」が浦上教会を会場に開催された。約320人の子供たちと大勢の応援団で、開会前から聖堂内は熱気に包まれた。

第1部は浦上教会主任司祭平野師司式によるみことばの祭儀が行われた。

各小教区の教会学校の子供たちによる「クリスマス朗読劇」、司祭・牧師、教会の有志による合唱、大村室内合奏団による合奏など内容豊かに行われた。

「クリスマスを迎えることはキリストを迎えること」――、このメッセージがすべてのプログラムを通して参加者に伝わり、終了後、参加者ともに小さなパーティーを行い、主の降誕を先取りして祝った。

メモをノートに走らせていた。

この「聖書講座」は今年3月まで、毎月第3日曜日、計5回開催される。

第20回世界青年の日　2005年
ワールドユースデー（WYD）ケルン大会
「わたしたちはイエスを拝みに来たのです」㊀

日本巡礼団振り返りのミサ

ノイスの町を歩く

WYDケルン大会のプログラムがすべて終了した。青年たちはこの期間、様々な体験をすると同時に多くの出会いと喜びを得ることができた。ノイスの町で迎える日本巡礼団300余人の「振り返りの日」は、分かち合い、ゆるしの秘跡、感謝のミサで過ごす。それぞれの場所へ帰っていく青年たちは、これからもイエス・キリストに出会った喜びを人々に伝えることができるよう多くの励ましによって新たに勇気づけられた。

祈り、ゆるしの秘跡、分かち合い

8月22日、コルネリウス教会に集まった日本巡礼団は、今大会日本事務局長を務めるジャンクロード・オロリッシュ神父（イエズス会）のプレゼンテーションを受けて個人の祈りを行い、ゆるしの秘跡にあずかった。青年、アシスタントを交えた分かち合いでは、それぞれの体験や現在の心境などを語り合った。

振り返りのミサ

夕方、同教会で高見三明大司教司式による振り返りのミサが行われた。

はじめに主任のヨーシェン・ケニック神父は、「私たち小教区は喜びをもって皆さんを迎えています。今年は特に原爆60年と聞き、心から悼みたいと思います。WYDでは戦争は決して起こさないよう、あらためて気づかされました。私たちとともに平和のために祈ってください」と呼び掛けた。

また、説教の中で高見大司教は、「私たちは困難さや不自由さを体験しましたが、同じ目的で集まった日本や全世界の若者たちと出会い、ペトロの後継者である教皇さまと出会いました。そして、教皇さまの中にキリストの姿を見、キリストを求める心でひとつになることができました。そこにはキリストがおられたはずです。今回得た体験をそれぞれの生活の場にもって帰り、分かち合い、連帯し支えあいながらキリストの愛を実践し、証して行きましょう。それは平和と永遠のいのちへの道です」と語った。

ミサ参列の青年たち

最後に、コルネリウス教会の共同体が手作りの十字架を日本巡礼団へ贈り、待者の子供たちから一人ひとりに手渡された。ミサは手のひらのキャンドルの光がゆらめく中、平和の祈りと感謝のうちに終わり、青年たちは新たな勇気と力に満ちた。

巡礼最後の日、そして、帰国して

23日、ケルン大聖堂（**写真下**）の主聖堂で、岡田武夫大司教（東京）司式、マイスナー枢機卿（ケルン大司教区）参列のもと、日本語によるミサがささげられた。東方三博士の聖遺物が納められている大聖堂でのミサは、今大会を締めくくるにふさわしいものだった。巡礼団はこの後、ケルン教区の招きでライン川を船で下り、ケルンの地を離れた。

日本に帰国後、全国各地で今大会の分かち合いや報告の場が、青年たちによってもうけられている。互いに励まし合いながら、巡礼の旅はこれからもずっと続いていくことだろう。そして、青年からまた次の若い世代の人たちへ、イエス・キリストの愛が伝え広められることを願い、共に祈り続けていきたい。

（教区広報・鹿山みどり）

長崎の青年たちの感想㊀

★今回のＷＹＤに参加させてもらい、一番に感じたことは信仰の厚みということでした。世界中から集まった人たちは、皆同じ仲間だ、と向き合ってよくわかりました。そして教皇さまを見た時には、行ってよかった、と正直思いました。それから、応援してくださった司教さまたちに感謝します。

（水の浦教会・川上正文）

★知っている人、知らない人、日本人外国人関係なく言葉を交わし、祈り合い、共に歌うことが普通の雰囲気。それが、この巡礼のすべてに流れていました。大切にし、何より伝えたい体験です。

（純心聖母会志願生・辻本典子）

★今回の大会では神さまのはからいで国内外全世界の人々との出会いがありました。感謝の気持ちとともに、この体験を生かしながらこれから祈りや教会での活動をしていけたらいいなと思っています。

（鹿児島　谷山教会・板倉聖教（きよのり））

★私がＷＹＤで強く感じたことは、他の地域の青年たちは活発に青年活動をしているということです。長崎の青年も今回ＷＹＤに行ったメンバーが中心となって活動をしていければ良いと思います。

（青砂ケ浦教会・馬込奈菜）

ニュース新聞ニュース

▽市丸道人さんに長崎新聞文化章　作年11月22日、長崎新聞文化ホールで、平成17年度の長崎新聞文化章が4人に贈られ、市丸さんは平和・福祉部門（原爆研究と平和活動）で受章。佐世保同仁会「サンレモリハビリ病院」院長。長崎市扇町。80歳。（長崎新聞）

▽05年度県民表彰　11月23日、県議会議場で表彰式を行う。受賞者は個人123人、団体21。個人で受賞の長崎市平野町の平山兼則さん（78歳、昭英出版代表）は障害者の雇用に貢献。団体では純心女子高の「ミゼリ・コルディアクラブ」が献血の呼び掛け、児童養護施設のボランティア活動で受賞。（西日本新聞）

▽秋月辰一郎さんのお別れ会　11月27日、長崎原爆資料館で営まれた。被爆者や市民団体、核兵器廃絶運動に参加する高校生ら350人が参列した。13年間にわたって献身的な看護を続けた妻寿賀子さんら遺族も出席した。（毎日新聞）

▽高円宮杯全日本中学校英語弁論大会　聖マリア学院中学3年の東島衣里さん（14）5位入賞。大会は読売新聞社など主催で11月の25、26の両日、東京のよみうり・ホールで行われ、県代表の東島さんは予選を突破し、27人で決戦に臨んだ。スピーチは、祖父の原爆体験を盛り込んだ「心を感じる」の演題で登壇した。（読売新聞）

▽おかあさんの詩コンクールで最優秀賞　長崎南山小4年、岡本紗季さん（10）は、NCC長崎文化放送主催のおかあさんの詩コンクールで、最優秀賞。表彰式は11月26日、NCCスタジオ。母への感謝を表現した、「あったかい氷」。（朝日新聞）

みことばにふれて⑱

本田靖彦神父

新年、あけましておめでとうございます。滑石教会の本田神父です。今年から約半年にわたって、皆さんと一緒にイエスさまのメッセージを味わっていきたいと思います。よろしくお願いします。

さて、「1年の計は元旦にあり」と言いますが、皆さんは今年の目標はもう立てたでしょうか？　今年こそは、お勉強をがんばろう、スポーツをがんばろう、好き嫌いをなくそう、お友だちをたくさんつくろう、ミサや教会学校を休まないようにしよう、お手伝いをがんばろう、などいろんな目標があると思います。私ですか？　私の目標は、これからもみんなの元気が出るようなミサを目指すことです。

皆さんの中には、今年もがんばっていこう！　と意気込んでいる人もいれば、もしかしたら不安な気持ちでお正月を迎えた人もいるかもしれません。私たちにはそれぞれいろんな、悩みや心配があります。でもそんなに心配しないでください。それは特別なことではありません。私たちは決して独りぼっちになることはありません。たとえ、誰もいなくなったとしても、私たちのお父さんである神さまはいつも私たちと一緒にいてくださいます。

「空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。・・・」（マタイ6章26～34節）

鳥や、草木の命さえも大切にしてくださる神さまが、私たち人間のことをお忘れになることがあるでしょうか？　いいえ、神さまは決して私たちのことを忘れたりなさいません。それどころか、いつも、いつも心配してくださっています。

もし今、あなたが独りぼっちだなぁ、さびしいなぁと感じているなら、そっと目をとじて神さまの声を聴いてみましょう。あるいはあなたのすぐ近くで、落ち込んでいる人、元気がない人、悲しんでいる人がいたら、あなたがその人のお友だちになってあげましょう。

神さまは今日も私たち一人ひとりのことを心配してくださっています。そういう神さまに、「ありがとうございます」のお祈りをして、1日を始め、そして1日を終わるようにいたしましょう。

2005年ワールドユースデーケルン大会　報告会

日　時：2006年１月15日（日）14：00～16：00
場　所：カトリックセンター２階ホール
内　容：ＷＹＤケルン大会の参加者による
　　ドイツ、ルクセンブルクでの体験の分かち合い
主　催：ＷＹＤをひろげる会

青年はもとより、多くの方の参加をお待ちしています

～聖パウロの足跡を訪ねて～
聖地 トルコ 巡礼8日間の旅
●アンタクヤ・タルソス・ルステラなど、使徒言行録“パウロの足跡”を中心に初代教会や黙示録の７つの教会の世界をご案内！
●聖パウロの生家、聖ペテロの洞窟教会、聖母マリア様が余生を送ったといわれる家、聖ヨハネの眠る地などへご案内！
●世界遺産のカッパドキア、パムッカレ（ヒエロポリス）、エフェソスなどの観光名所（聖書に記載）にもご案内！
・代金：284,500円（渡航手続費用、空港税別途）
・期間：2006年3月15日(水)～22日(水)
・25名様限定　最少催行人数：15名様
・行程：長崎空港→成田発の直行便でトルコへ！
お申込・資料請求は
JTB長崎支店
電話 095―824―2400
担当：堀田、堤まで

平成１８年度　生　徒　募　集
■中学入試
一次入試１月２１日（土）
二次入試２月１９日（日）
■高校入試
特進クラス入試１月１８日（水）
一般一次入試　２月　６日（月）
一般二次入試　３月１８日（土）
長崎南山 中学校 高等学校
TEL　095-844-1572
URL　http://www.n-nanzan.ed.jp

教会バンコ・祭壇・朗読台・家庭祭壇
浜口木工所
ヨハネ　浜口知博
〒857-0032　佐世保市宮田町７－７
☎（0956）２３－１８６７

介護センター　あおぞら
訪問介護事業所
カトリックの介護センターです。
心をこめてお世話をさせていただきます。
要支援、要介護認定を受けておられる方はぜひ御利用下さいますようお願い致します。
代表　アガタ　崎谷正子
長崎市油木12-1
TEL（095）842-6550　FAX（095）842-6560

白蟻調査無料・駆除予防工事５ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　マリア　大島睦子
（〒850-0811）長崎市矢の平１丁目14番15号
☎長崎 095－822－８４３６
ＦＡＸ 095－822－８４３６